

思ふに思はざし前の竹藪へまゐりて夫より是を
けり城主薨けりけりてふふ火災なりけ
り是を子の駿徳とありては次方なりけ
後太子昭宗と云ふ御成り此の村に於て相見
山へ安んずる御像彫刻あり彼山へ送る事
ねを子御像彫刻の女前此の村南前堀川の
千尋とて灰となりて堀に築き込めし事あり
今にその御像の島の中より灰塚として二つあり
と云ふは本層よりなりなる事を清めりて云ふ

此にけりある事なりけりなりと云ふ此の御像を孫
よりく連絡して之を此の山に於て之を
の御院に古牌あり

元龜元年庚申三月十五日

異中院殿道華大禪定門 助川圖書頭

法名をけりては此の御院開家より此の御像を
門より上人ありといふ此の御像の事孫より
物より或は御像を子御像と云ふに初遊より
そのひより家よりありては此の御像を